



名峰磐梯山を背に、名曲「バンザイ〜好きでよかった〜」を熱唱するトータス松本さん

特集 極上の休日

猪苗代湖畔・天神浜で開催されたカルチャーミックスフェスティバル「オハラ☆ブレイク'16夏」。
猪苗代湖畔に日本を代表する表現者＝アーティストが集結しました。
豊かな自然に恵まれたこの地で過ごす極上の時間。
今月号では、イベントの様子とイベントを通じて町の魅力を発信する若者たちの姿を紹介します。

オハラ☆ブレイク

「数ある夏フェスの中でも、オハラ☆ブレイクにだけは出させてほしいとお願いしたんです。磐梯山に猪苗代湖、こんなに素晴らしいロケーション、ほかにはないです。」昨年引き続きの出演となったトータス松本さんは、ステージから話しました。

「オハラ☆ブレイク'16夏」は、7月30日から8月7日までの9日間、天神浜で開かれました。このイベントは、音楽を中心に、演劇、美術、写真、映画、ファッション、食などさまざまな文化を感じることができるカルチャーミックスフェスティバル。今年で2回目の開催です。イベント名の「オハラ」は民謡会津磐梯山の小原庄助さんが「ブレイク」は英語の「休息」が由来となっています。また、「ラブ・ブレイク」という言葉が隠れていて、猪苗代湖を愛する気持ちも込められています。イベントのコンセプトは「スローライフを大切にしたい大人の文化祭」です。

特設ステージには、浅井健一さん、トータス松本さん、田島貴男さんなど、多数のミュージシャンが出演。湖畔の風景に合った、アコースティックを主

体とした演奏を披露し、訪れた来場者を魅了しました。
ステージに立ったミュージシャンたちは、誰もが山と湖に囲まれたロケーションを絶賛。夕暮れ時には、湖面に沈む夕日が、まるで照明のように会場全体を赤く染め上げ、来場者は、自然の美しさを感じながら、極上の時間を過ごしました。

多彩なプログラム

音楽ステージ以外にも多彩なプログラムが展開されました。世界中から寄せられたアナログレコードが収蔵された移動コンテンツ。ロックの図書館分室と名付けられたこのコンテンツには、奈良美智さん、森北伸さん、青木一将さんによる美術制作が施されました。

猪苗代湖畔を舞台に繰り広げられる短編小説「三人の男が猪苗代湖で会う話」スパイ・失恋・エスケイプ」を昨年の同イベントに書き下ろした小説家の伊坂幸太郎さんは、続編となる「猪苗代湖の話2016」をスポンジとサマー」を執筆。作品は来場者に配布されました。

さらに、「三人の男が猪苗代湖で会う話」は劇団のペテカンにより演劇化。音楽はThe ピーズの大木温之さんが担当し、

ギター一本で生演奏。猪苗代湖畔で繰り広げられる心温まる物語が、現実世界の猪苗代湖畔で演じられるという演出に、訪れた来場者からは大きな拍手が送られました。
はじまりの美術館は、同館で開催中の企画展「オソレイズム」を開催。飯野哲心さんによる「精霊馬ムーバー」が展示されました。この作品は乗り物になっていて、子どもたちが楽しそうに遊んでいました。

町出身者も参加

同イベントには、国内外で幅広く活躍する町出身者も参加。5月14日に就航したANA「東北フラワージェット」で機体デザインを手がけた写真家、野口勝宏さん（東南真行出身）や似顔絵をユーモアたっぷりに描く、カリカチュアアーティスト、渡辺孝行さん（小平湯出身）も作品の展示などを行い、来場者の目を惹きました。「朝ヨガ」で参加したヨガインストラクター、meicoさん（旭町出身）は「小さい頃、家族と遊んだ猪苗代湖。大勢の人が猪苗代湖の大自然を満喫している様子を目の当たりにして、自分の生まれ育ったふるさとを誇らしく思います」と話しました。



1_奈良美智さんのイラストが施されたロックの図書館分室 2_東北、福島の花の写真作品を展示した野口勝宏さん 3_「三人の男が猪苗代湖で会う話」を演じるペテカンのメンバー 4_伊坂幸太郎さんが書き下ろした短編小説 5_渡辺孝行さんは著名人の似顔絵を展示 6_飯野哲心さん制作の精霊馬ムーバー 7_自然に囲まれた会場でヨガを指導する meico さん

若者の力を一つに

豊かな自然に囲まれ、歴史、伝統文化、温泉などの観光資源を有する猪苗代。オハラ☆ブレイクの会場内には、新たな町の魅力を発信しようとする若者たちの姿がありました。



食で会場を盛り上げる

屋台などの飲食コーナーも野外イベントの楽しみ一つです。オハラ☆ブレイクの会場内にも料理や飲み物を提供するテントが並びました。

農家レストラン結は、猪苗代名産のそばを提供。ほかにも焼き団子や猪苗代地ビール、只見名物の味付マトンケバブなどの豊富なメニューがあり、来場者は、極上の音楽や芸術とともに、さまざまな食を楽しみました。

メインステージ近くに設けられた「猪苗代食堂」のブースには、大勢のお客さんが詰めかけました。この「食堂」を運営するのは、町内の若者たちが立ち上げた「猪苗代研究所」の会員やその仲間たち。猪苗代食堂では、町内産の農産物を活用したオリジナルメニュー、ベジタコライスや夏野菜トルティーヤ、まるごとアスパラの春巻きなどを販売しました。

猪苗代食堂の隣には、採れたての新鮮野菜や果物を販売する「猪苗代市場」を開設。JA会津よつば青年連盟猪苗代地区（農青連）のメンバーらが生産したトマトやキュウリなど、地元産の新鮮な野菜を買い求める来場者でにぎわいました。

1_会場には町の子どもたちが書いた絵画が展示された 2_活発な意見が飛び交った試食会 3_猪苗代研究所設立総会



Interview

猪苗代研究所理事長
【猪苗代町商工会青年部】

西村和貴さん

Kazutaka Nishimura
中の沢



昨年のオハラ☆ブレイクの開催前に、イベントの発起人である菅真良さんから「地元の人に、地元の農産物などを使って出店してほしい」と相談されたのが全ての始まりでした。これを良い機会と捉え、農青連と青年会議所に協力をお願いすることにしました。その結果、新たな仲間たちとともに、「猪苗代研究所」としての活動がスタートしました。

今年のオハラ☆ブレイクでは、「猪苗代食堂」という名前で3団体が一致団結して出店することでメニューの統一化を図ることができました。購入していただいたお客さんからは、農産物の生産者が直接販売しているということで、安心して商品を買うことができるとの声をいただきました。食の新メニュー開発は、時間不足もあってまだまだ満足できないところがあるので、色々なアイデアを出し合いながら、猪苗代らしい商品を作りたいです。

Interview

猪苗代研究所副理事長
【JA会津よつば青年連盟
猪苗代地区】

土屋睦彦さん

Nobuhiko Tsuchiya
百目貫



地元の若者たちと手を組んで、自分たちの力で何かをやりたい。農業に携わりながらも、ずっとそんな思いを持っていたので、猪苗代研究所を設立するという話を聞いた時は、すぐに協力したいと思いました。農家、飲食店、食品加工、大工、電気屋、僧侶、神主など、メンバーの職業はさまざま。でも、猪苗代を訪れた人に気持ちのいい時間を過ごしてもらいたいという思いは一緒です。出店に迷いはありませんでした。

イベントでは、私たちが愛情を込め、自信を持って生産した米や野菜を多くの人に食べてもらうことができ、とても嬉しく思っています。私は、オハラ☆ブレイクに参加することができ、町の若者たちは大きなチャンスをいただいたと考えています。猪苗代に住んでいてよかったと少しでも思えるように、仲間たちと取り組んでいきたいです。

Interview

猪苗代研究所副理事長
【猪苗代青年会議所】

楠 恭信さん

Kyoshin Kusunoki
三城潟



猪苗代研究所として何ができるのか。夜、各自の仕事が終わってから何度も集まっては話し合いをしましたが、なかなか話がまとまりませんでした。そこで、活動の方向性をより明確なものにするため、団体をNPO法人化することに決めました。NPO法人を設立するために、専門的なアドバイザーを呼んで講習会や勉強会を開きました。青年会議所としては、メンバーそれぞれがこれまでに培ってきた経験や人脈をうまく生かすことができたと感じます。

今後、猪苗代研究所では、地域活性化のためのさまざまな研究や取り組みをしていきたいと考えています。オハラ☆ブレイクでの活動は、その第一歩となる大きな取り組みだと思います。今回の出店を経験して、良い刺激をたくさん受けました。今後は、得意分野を生かしながら、より高みを目指していきます。



1_猪苗代市場の新鮮野菜 2_賑わいをみせた猪苗代食堂 3_地元産品を使ったオリジナルカクテルも人気 4_農家レストラン結の創作冷かけそば 5_お客さんも自然に笑顔に





オハラ☆ブレイク実行委員長
菅 真良さん
(上新町出身)

18歳で猪苗代町を離れ、仙台市の会社で東北を中心にコンサートの仕事を26年間行ってきました。コンサートの仕事で培った人脈を生かして、いつか、日本のどこかに、世界中の人が憧れるようなキラキラした魅力的な町を作りたい。こんな思いが年々強くなりました。

その町をイメージした時、自分の生まれ故郷である猪苗代湖や磐梯山の情景が浮かびました。壮大な景色の中で、音楽が流れて素敵な美術を鑑賞できて、美味しい食べ物を堪能できて、迎えてくれる町の人たちが魅力に溢れている。そんなイメージを持つことができたので、猪苗代湖畔でオハラ☆ブレイクを開催しました。

会場に足を運んでくれたお客さんから、楽しい時間を過ごしていただけたこと聞き、嬉しく思っています。出演したミュージシャンや美術の展示などで参加したアーティストからも「またこの場で演奏したい」「違う展示や表現に挑戦したい」などの言葉をいただきました。そして、猪苗代町に住んでいる人たちが会場を訪れ、楽しい時間を共有してくれたことに感謝しています。

昨年、産声をあげたオハラ☆ブレイク。私がオハラ☆ブレイクを始めたことで、たくさんの人たちの人生に、今までとは違う何かが始まっていることを知り、嬉しく思っています。ただ、今年の開催は、イベントの集客が昨年と変わらなかったため、収支が見合わない状況となり、残念ながら損失は大きく、イベントを続けていくためには、まだまだ動員が足りないのが現実です。でも、続けられる限り、続けていきます。

猪苗代湖に沈む夕日や夜空に輝くたくさんの星。磐梯山はでっかくて、おいしいご飯においしいお酒。この町から生まれる感動は、みんなに自慢できる宝物です。今年、参加いただけなかった人たちにもぜひ、続けている限りいつか参加して、最高の時間を過ごしてほしいと思います。そして、願わくば、一緒に、最高の町を作っていってもらえたら幸いです。



町の魅力を再発見

自然の恵みに人が持つ魅力が加われば、
当たり前感じていたことが、
かけかえのない、特別なことになります。

極上の町で暮らす

東日本大震災から5年6ヶ月が経過し、町の基幹産業の一つである観光業においては、関係者の努力の成果もあり、観光入込者数は徐々に震災前の水準に戻りつつあります。しかし、教育旅行においては、依然として震災前の約55%程度にとどまっています。また、日本全体で年々増加している訪日外国人旅行者数ですが、県内の入込者数は原発事故による風評被害の影響があり、低迷したままです。

「猪苗代湖畔でどんなイベントが開かれているのか、自分の目で確かめに来ました。町の若者たちが一生懸命に取り組む姿を見て、頼もしさを感じました。先日、猪苗代湖に関連する日本遺産の登録がありました。が、まずは地元の魅力に気づき、触れることが大切だと思います。」猪苗代町地方史研究会などで幅広く活動する鈴木清孝さん(西館)は、話しました。

オハラ☆ブレイクでは、町の魅力と音楽や芸術などの文化が融合。町の若者たちの取り組みも、極上の空間の一部となりました。

磐梯山と猪苗代湖。私たち町民にとって当たり前の風景は、多くの人々に感動を与える特別

な風景でもあります。自然、歴史、伝統文化など猪苗代町は全国に、そして世界に誇ることができる魅力の宝庫であることを取材を通じて再認識しました。このような魅力の原石となる素材は、まだまだ私たちのすぐ身近なところに眠っている可能性があります。

魅力たっぷりな猪苗代で、楽しく、元気に暮らしている町民の皆さんの笑顔もまた、かけがえのない財産の一つ。小原庄助さんもうらやむような極上の休日をご過ごしていきます。

特集 極上の休日 終わり

【VOICE】 東京都から初来町



初めて猪苗代町に来ました。別な音楽イベントに参加したことがありますが、こんなにゆったりとした雰囲気、自然がとも豊かで、東京にはない良さを感じています。猪苗代食堂の「ベジタコライス」を食べましたが、野菜が甘くてとてもおいしかったです。猪苗代には温泉がたくさんあると聞いたので、また来たいと思います。天瀬芽さん(左)、村田百子さん(右)：東京都

【VOICE】 親子で初参加



とても美しいロケーションの中で、音楽のほかにも美術などの芸術に触れることができ、親子で最高の時間を過ごしています。天神浜には、娘が小学生の頃に湖水浴に来て以来だったのですが、県内でこのようなイベントが開催されていることとても誇りに思います。ぜひ、また来年も開催してほしいです。池田いづみさん(左)、萌美さん(右)：須賀川市

【VOICE】 町内から参加



子どもが生まれてからは遠くのイベントに行くことができなくなりました。でも、町内でこんなに素敵なイベントが開催されていてとても嬉しいです。湖水浴を楽しんでいると、ステージからは大好きな音楽が聞こえてきて、贅沢な時間を満喫しました。オハラ☆ブレイクで、特別な夏の思い出がたくさんできました。川上順子さん(右)、柊輔くん(左)：八千代